

田んぼはみんなのたからもの

糠野目小学校 三年 斎藤 楓

私は、あつあつのごはんにのりもくるんで

食べることも大好きです。

「もりもり食べてすごいね！」

お父さんとお母さんはそう言う、ていっもほめ

てくれます。私のいいところは、すききらい

なくごはんを食べられるところです。

私の家の周りには、お米を作る田んぼがた

くさんあります。しば犬のもののさん歩をし

ているときに、かんさつをしてみました。

春、田うえが始まると、ゲロゲロとカエル

の合し、うが聞こえてきます。カエルは、田

んぼの虫も食べて生きています。

夏、私の家には毎年ツバメがやってきます。

田んぼのどろを口ばしにくわえてきて、器用

にまるでおわんのような形の巣を作っています

した。その巣から、今年は五羽のひなが元気

に巣立って行きました。

秋、田んぼはいつの間にか、きれいな金色

になりました。田んぼから聞こえてくる音がかわっていきます。カサカサという音になって、トンボやいなごがとんでいきます。冬、田んぼに雪がつもってまっ白です。かがうと空から鳴き声が聞こえると、白鳥のむれがやうてきます。白鳥は、田んぼを口ばしでつついていました。ふしぎに思ってお父さんに聞いてみると、こう教えてくれました。田んぼに落ちているお米や、土の中にいる生き物を食べているんだよ。

田んぼは、お米を食べる私たちにも、お米を食べない生き物たちにも大切です。田んぼがあるから、たくさんのお米があることが分かりました。

その年にしゅうかくされたお米も、新米というそりです。お米や田んぼのことを知ると、ごはんをもっとおいしく食べられそりです。大好きなごはんをおなかいっぱい、ぱいに食べられ、ことに感謝し、をしてお、いたたきます。を大切にしたいです。